

令和6年度 学力・学習状況調査／幸手市全体の調査結果概要

全国学力・学習状況調査（小6及び中3、令和6年4月18日（木）実施）と**埼玉県学力・学習状況調査**（小4～中3、令和6年4月30日（火）・5月14日（火）・5月16日（木）実施）の結果から見られた**顕著**な特徴をお示します。（保護者の皆様には、児童生徒に配付された個人票をもとに、良い点や伸びている力について家庭でもお話しいただき、**今後の成長のきっかけ**としてご活用いただくようお願いします。）

1 学校生活に関する内容

※その年度の県平均を超えている場合、水色色付き

		小4	小5	小6	中1	中2	中3
⑦「ていねいな言葉づかい」	県(R6)	83.2	88.8	88.2	90.2	91.2	93.4
	幸手市(R6)	84.1	89.7	92.6	94.0	94.5	93.8
	幸手市(R5)	84.0	90.9	90.5	92.2	92.9	90.6
	幸手市(R4)	83.5	83.5	91.3	90.4	90.4	94.8
⑧「やさしい言葉づかい」	県(R6)	82.7	86.7	84.5	89.6	88.2	91.4
	幸手市(R6)	84.1	88.3	89.6	93.4	90.9	92.4
	幸手市(R5)	85.0	86.1	89.9	90.6	90.5	88.8
	幸手市(R4)	83.8	80.9	87.4	89.6	89.3	91.4

成果

◎「ていねいな言葉づかい」「やさしい言葉づかい」について、**全ての学年で県平均を上回っている**。毎年度良好な結果であることから、学校生活の基盤である**道徳教育等で培った相手を敬う気持ちが醸成**されていることがうかがえる。引き続き、学校全体で言語環境の充実を継続する。

【県学調】質問調査「言葉づかい」

主体的・対話的で深い学びの実施						
	小4	小5	小6	中1	中2	中3
幸手市	4.003	3.870	4.010	3.878	3.901	3.727
県	3.922	3.866	3.848	3.858	3.803	3.723
	0.081	0.004	0.162	0.020	0.098	0.004

【県学調】質問調査「主体的・対話的で深い学びの実施」

◎授業では、児童生徒が**自ら学習**に取り組み、**友達と協調**しながら学んでいると受け止めている割合が**県平均よりも高い**。また、**学習方略**や**非認知能力**の項目で、**県平均を超えている割合は72.9%**と良好な結果であり、家庭、地域と連携した各学校の取組が成果を挙げているものととらえられる。

課題

		小4	小5	小6	中1	中2	中3
⑤「あいさつ」	県(R6)	75.9	77.6	77.9	84.7	83.0	85.3
	幸手市(R6)	75.4	77.3	80.7	84.2	79.3	76.8
	幸手市(R5)	80.5	73.9	79.3	84.4	72.3	75.1
	幸手市(R4)	71.9	75.1	75.6	80.6	75.5	86.8

【県学調】質問調査「あいさつ」

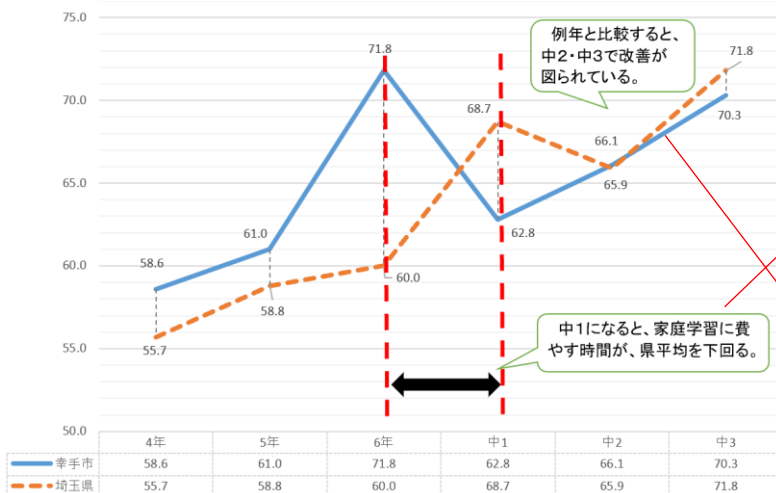
▲「**あいさつ**」について、県平均と比較して課題が見られる。特に、青年前期の発達段階に配慮し、**あいさつの意義等**について理解を深め、**家庭と共に習慣化**が図れるよう指導・支援を行っていく必要がある。

	学習方略					非認知能力		
	柔軟な方略	プランニング方略	作業方略	認知的方略	努力調整方略	自己効力感	自制心	
幸手市	3.626	3.652	3.401	3.943	3.613	-	3.626	3.877
県	3.659	3.683	3.473	3.975	3.846	-	3.649	3.921
	-0.033	-0.031	-0.072	-0.032	-0.233	-	-0.023	-0.043

【県学調】質問調査「小5 学習方略・非認知能力」

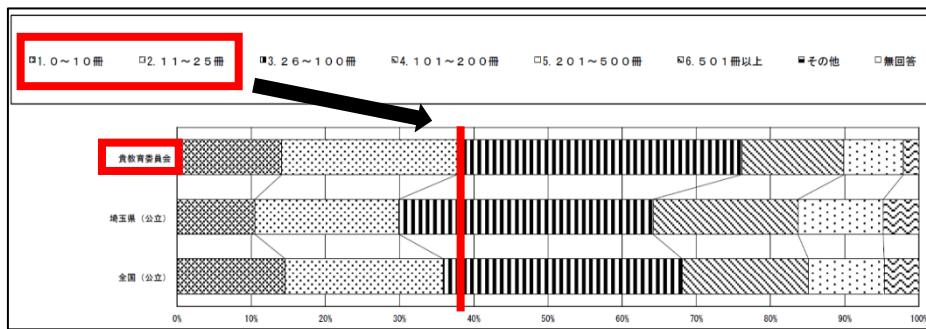
▲**学習方略**や**非認知能力**では、粘り強くやり抜く「**努力調整方略**」に課題が見られた。苦手意識を克服して最後までやりとげられるよう教師・家庭での指導・支援が必要となる。

2 家庭生活に関する内容



▲小学生は、**家庭学習**にける**時間**が県平均を上回っているが、特に**中1**では、県平均を大きく下回っており、改善すべき重要な課題である。家庭学習の在り方について、**小中の接続**を意識して指導する必要がある。

◎学校の働きかけと家庭の理解により、例年よりも**中2・中3の家庭学習**について**改善が図られている**。



【全国学調】質問調査「家に何冊本があるか」

▲家庭にある本の冊数が多い児童生徒ほど、学力階層が高いと指摘されている。家にある本が25冊以下と回答した割合は、全国平均が約30%であるのに対して、本市は約40%であり、全国平均を大きく下回っている。学校図書室の活用や家庭の読書環境の整備が重要である。

3 埼玉県学力・学習状況調査 平均正答率及び学力の伸び

1 調査結果(小学校)		…県越え									
	4年生		5年生				6年生				
	国語	算数	国語	伸び	算数	伸び	国語	伸び	算数	伸び	
埼玉県平均正答率	51.9	62.6	56.9	1	53.4	1	56.7	0	50.9	1	
幸手市平均正答率	54.2	64.0	54.3	1	51.0	1	58.2	-1	54.6	0	
県平均との差	2.3	1.4	△ 2.6	0	△ 2.4	0	1.5	△ 1	3.7	△ 1	

2 調査結果(中学校)															
	1年生				2年生				3年生						
	国語	伸び	数学	伸び	国語	伸び	数学	伸び	英語	国語	伸び	数学	伸び	英語	伸び
埼玉県平均正答率	59.9	1	53.5	0	60.3	0	48.8	2	61.9	66.4	2	57.5	0	54.6	2
幸手市平均正答率	56.8	0	51.6	0	57.9	-1	42.5	1	55.5	63.9	2	52.0	-1	46.4	1
県平均との差	△ 3.1	△ 1	△ 1.9	0	△ 2.4	△ 1	△ 6.3	△ 1	△ 6.5	△ 2.5	0	△ 5.5	△ 1	△ 8.2	△ 1

4 全国学力・学習状況調査 平均正答率及び分布

	小 国語	小 算数		中 国語	中 数学
全国平均	67.7	63.4	全国平均	58.1	52.5
埼玉県平均	69	64	埼玉県平均	59	53
幸手市平均	72	67	幸手市平均	55	47

数値から見える成果と課題

【埼玉県学調】

◎小学生では、5年生以外の正答率は県平均以上である。
▲中学生では、県平均より低い状況である。特に英語が課題である。

【全国学調】

◎小6の平均正答率は、全国平均及び埼玉県平均を上回っており、他市町より上位であった。
▲中3の平均正答率は、全国平均及び埼玉県平均を下回っている。

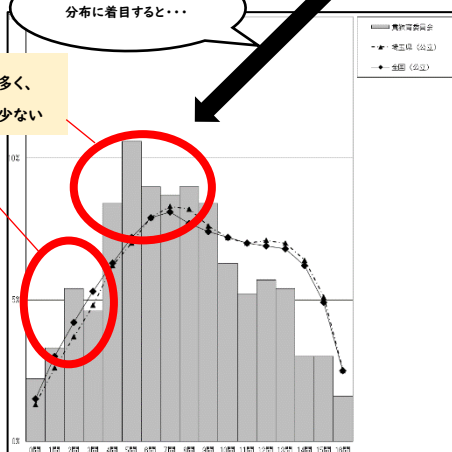
分析と今後の取組

- ・コロナ禍の負の及ぼす影響で生徒の学びに向かう力・自己マネジメント力等が低下していることが考えられる。生活改善や心の活力(向社会性)の育成が急務である。
- ・教科の特性を活かしたさらなる授業改善や授業と家庭学習のサイクルの確立が肝要である。
- ・上位層・下位層の分布を意識し、より一人一人にあった学びを提供することが必要である。
- ⇒小中の接続や連携を意識して取組を進めていく。また、自己の生き方やキャリアについて学ぶ機会を充実させていく。
- ⇒教科の内容理解だけでなく、問題を早く正確に読み解く読解力の育成等を意識した授業改善が必要となる。
- ⇒習熟度別の指導や、個に応じた支援体制の充実等が重要であり、学年部会や教科指導部会での検討が必要となる。

分布に着目すると...

▲中間層が多く、上位層が少ない

▲下位層が多く、基礎基本の更なる定着が求められる



【中学校 数学】正答数分布グラフ(横軸:正答数 縦軸:割合)